

[実践報告]

# 地域スポーツクラブから見た「部活動の地域クラブ移行」 の現状と課題の考察

—神奈川県中郡二宮町の実践事例から—

小林 等

## 〈要 約〉

日本の中学校教員は世界的にみても非常に忙しいことがデータでも示されている。平均勤務時間は、1日11時間を超えており、長時間労働に値する。その原因の一つに「学校部活動」がある。その問題を解決するために、2020年度には「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」が発表され、2023年度から、休日の部活動の段階的な地域移行を図ることや、学校と地域が協働・融合した部活動の体制構築することが明示された。

本実践では、2021年度経済産業省が地域クラブを対象とした事業運営の在り方、場所や指導者の確保等を検証するための「未来のブカツ」フュージビリティスタディ（FS）事業の報告と実践を進める中での見えてきた課題と今後の方向性を考察した。

その結果として、国が進めている部活動の地域クラブ移行に、地域スポーツクラブの立場から受け皿となり得るのかについては「効果的・効率的な運営」「持続的なクラブ経営に向けての収益の確保」「学校部活動との関係整理」3つの視点が重要であることがわかった。さらには、学校、行政、地域クラブで協働しながら継続的に議論と実践を続けていくことも明確になった。

キーワード：地域スポーツクラブ、部活動、クラブ経営、二宮町

## 1. はじめに

### 1.1 実践の背景

「教員勤務実態調査（平成28年度）」（文部科学省, 2018）によると、中学校教員の平均勤務時間は、1日11時間を超えており、長時間労働に値する。また、経済協力開発機構（OECD）の2018年調査によると、日本の中学校教員の仕事時間は週に約56時間とされておりOECD参加国中では最長の仕事時間と、世界的にみても日本の教員は非常に忙しいことが示されている。さらに、文部科学省の「我が国の教員の現状と課題—TALIS 2018結果より—」では、労働時間が長い一方で、教職員としての職能開発活動に費やす時間は参加国中最短とのデータが出ており、労働時間が長いことで自己研鑽ができていないという弊害が出ている可能性がある。

こうした長時間労働の原因の一つに「学校部活動」がある。練習だけではなく、週末には大会や練習試合も多いため、必然的に顧問（教員）も土日を拘束される。また大会の際は大会運営の役割が与えられ、教員が行う仕事量が増えてしまっている。

こうした背景を元に、平成30年文部科学省（スポーツ庁）は、「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を発表し、運動部活動の適切な運営のための体制整備、合理的かつ効率的な活動

推進のための取り組みが示された。また、2020年度には「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」が発表され、2023年度から、休日の部活動の段階的な地域移行を図ることや、学校と地域が協働・融合した部活動の体制構築することが明示された。このように部活動改革は、学校単体で改革することはできない。そこで総合型地域スポーツクラブや地域スポーツクラブと連携することで、教員の長時間労働の問題を解決することが期待されている。

総合型地域スポーツクラブは、子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向レベルに合わせて参加できる（多志向）という3つの特徴を持っている。身近な地域でスポーツを気軽に親しむことができ、地域住民により自主的・主体的に運営されており、まさに、市民の市民による市民のためのスポーツクラブと言える。総合型地域スポーツクラブが運営されていることで、①地域スポーツの振興②子どもたちの健全育成・体力向上③親子や家族、多世代間の交流④高齢者の生きがいづくり⑤地域の健康水準の高まり（医療費の削減）⑥地域コミュニティの活性化、の6つの効果が期待できる。また、文部科学省（2000）のスポーツ振興基本計画の中で「2010年までに全国各市町村に少なくとも一つ以上の総合型地域スポーツクラブをおく」と公表されたことで、現在では、日本全国に「総合型地域スポーツクラブ」が存在しており、すでに創設されたクラブは3,439クラブ、創設準備中のクラブは144クラブの合計3,583のクラブが存在している。しかしながら、単に数を増やすだけでなく、学校部活動と連携する地域クラブは持続的に経営され、地域の活性化にも貢献すること、そして、生徒が自主的にスポーツを楽しむことができる体制を構築することも求められている。

## 1.2 実践の目的と意義

文部科学省（2020）は「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」において、地域移行について、「地域部活動の運営主体は、退職教師、地域のスポーツ指導者、スポーツ推進委員、生徒の保護者等の参画や協力を得て、総合型地域スポーツクラブ、民間のスポーツクラブ、芸術文化団体等が担うことが考えられる」と示している。つまり、地域クラブが学校と連携し部活動改革に立ち向かうことを重点においている。しかし、地域クラブが部活動と安定して連携するためには、地域クラブが安定して持続できるだけの収益を上げる必要がある。そこで、2021年度には経済産業省が、地域クラブ側の目線で、収益性・持続可能性を高めながら、学校部活動の受け皿として機能するための事業環境問題を考えるべく、2020年10月に「地域×スポーツクラブ産業研究会」を発足した。その後、全国10ヶ所で保護者負担の程度や採算が合う事業運営の在り方、場所や指導者の確保、合意形成の在り方等を検証するための「未来のブカツ」フィージビリティスタディ（FS）事業が実施された。FS事業とは、事前に調査・検証を行うことによって、計画の実現可能性をより高くすることを意味している。本実践では、そのFS事業の一つとして、「ラビッツクラブ湘南二宮」において実施された成果を検証するとともに、学校や教員の立場からだけでなく、地域クラブの立場から見た部活動の地域移行について検証し、部活動と地域クラブが連携する際の課題を見つけ、実際に取りうる解決策を提案することを目的とする。本実践を通して得られた知見を元に、生徒がスポーツを楽しむことができるのはもちろんのこと、学校で働く教員、そして地域クラブに関わる人たちの負担も軽減できるような連携活動が推進されることを期待する。

## 1.3 論文の構成

本稿の構成として、第1章では教員の長時間労働の課題とその原因として部活動があることを説明した。またその部活動の課題を解決するための方策として地域クラブとの連携があることを紹介した。

第2章では、部活動改革の国の方針、現状と課題、総合型地域スポーツクラブの状況を取り上げ整理した。第3章では、経済産業省のフィージビリティスタディ事業概要と今回の対象クラブである「ラビッツクラブ湘南二宮」の実践を報告した。第4章では、見えてきた今後の課題と今後の方向性について考察した。

## 2. 地域スポーツクラブと部活動の現状と事例

### 2.1 部活動改革の現状と課題

部活動は、日本において明治時代から始まり、現在まで行われている伝統的な文化でもある。本節では、部活動の歴史や他国の状況との比較、教員の労働の実態、そして、部活動の課題点について整理する。

#### 2.1.1 部活動の歴史

中澤（2017）によると、部活動は外国人教師が、学問や技術だけではなく、スポーツも海外から日本へ持ち込んだことで誕生し、当初は校友会と呼ばれていたが、学校クラブやクラブ活動に変わり、部活動となった。さらに、中澤（2017）は、戦争と部活動の関係性にも着目し、戦時下の軍国主義の中で部活動が戦争に勝つための訓練へと変化したこと、そして、戦後には民主主義を育むために「自主性」を持った国民を育てるための手段として部活動が着目されてきた歴史に言及している。しかし、中澤（2017）も疑問を呈しているが、実態として、指導者の権力が強く、部活動では生徒の「自主性」を育むことができていない恐れもある。

その後、表2-1に示すように学習指導要領の中でも部活動の立ち位置は時代ごとに変化している。1947年では部活動の立ち位置は、教科外の活動ではなく、教科の一つという位置付けであった（益田ほか、2018）。しかし、学習指導要領改訂の経緯において、必修クラブ活動を廃止にした際に、部活動の位置付けを明確にしなかった結果、今日の部活動の在り方が曖昧になっている（益田、2018）。文部科学省が公開している部活動の意義では、学校の教育活動は、学習指導要領に示された「教育課程」と学校が計画する「教育課程外」の内容で構成されている。授業は制度的に決められているので、生徒の側から見れば好きでも嫌いでも受けなくてはならない。しかし、部活動は違う。部活動

表2-1 中学校・学習指導要領改訂の経緯

改訂年	教育課程内活動	教育課程外活動
1947年	自由研究	
1951年	特別教育活動	
1960年	特別教育活動	
1970年	特別活動 (必修クラブ活動) 週1回	部活動（選択） ※部活動が曖昧になる
1989年	必修クラブ活動→部活動 部活動の代替制度 ※部活動がさらに曖昧になる	
1989年以降	廃止	部活動 ※現行の学習指導要領

出典：西島（2006）、益田ほか（2018）を参考に筆者作成

は「自主的」な活動である。部活動の内容や形式，人材は，制度的に決まっているわけではない。同じ種目でも地域によって学校によって，活動内容や活動日数も違う。学校が部活動を設置・運営することは，法令上の義務とはされていないが，教育課程外で実施すると規定されている。つまり，学習指導要領に記載されている以上は，学校の教員と切り離すことができない状況になっている。しかし，本来，「教育課程外」であるならば，教員にばかり頼るのではなく地域の外部指導者や民間スポーツクラブの企業等と連携し，指導するべきであると考え。図2-1の通り，学校部活動は学校教育と社会教育の間に位置している。しかしながら，今後は学習指導要領から切り離し，学校だけでなく地域スポーツ団体や企業でも担うことができるように整理をする必要がある。

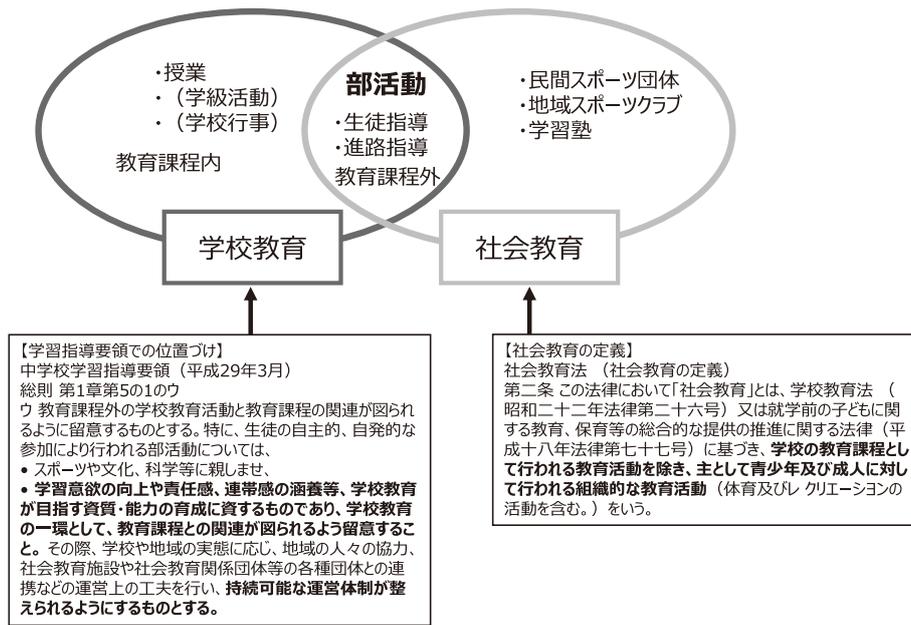


図2-1 「学校教育」と「社会教育」における部活動の位置づけ

出典：経済産業省「地域×スポーツクラブ産業研究会 最終提言」（2022）を参考に筆者作成

### 2.1.2 世界の部活動の状況

中澤（2014）によると，中学・高校段階のスポーツの場を国ごとに，「学校中心型」「学校・地域両方型」「地域中心型」に分けることができる。「学校中心型」とは，学校の部活動が青少年スポーツの中心になっている国であり，「地域中心型」とは地域のクラブが青少年スポーツの中心になっている国であり，「学校・地域両方型」とは，学校の運動部活動と地域のクラブの両方で青少年スポーツが行われている国である。経済産業省の「地域×スポーツクラブ産業研究会 最終提言」（2022）の各国の部活動の方針や活動状況の情報と合わせて表2-2に整理する。このように，部活動の在り方は国によってさまざまである。ドイツは地域のスポーツクラブが活動場所の中心となっている。その他のヨーロッパ諸国，南北アメリカは学校と地域の両方型で運営している。学校型は中国，韓国，日本など東アジア諸国に多い傾向である。学校型でも中韓の場合は，特定のスポーツ校による部活動のため小規模であり，日本ほど大規模に部活動が行われている国はない（中澤，2014）。日本では学校を卒業した後も学生時代の部活動を共通の話題として話すことがあるが，これは世界では稀有な状況と言える。

部活動の目的も各国によって異なっている。アメリカの部活動は，エリート競技活動として位置づけられており，イギリスはレクリエーションとしての色合いが強い。これに対し，日本は生徒の教育，人間形成を部活動の主たる目的に掲げているのが特徴である。イギリスは経済難で公立校はなか

なか施設を整えられず、複数の学校が公共のスポーツ施設をシェアしてスポーツ活動を行っているところもある。逆に私立の学校はスポーツ施設を充実させ、公立との差別化を図り、生徒を獲得しようとしている。経済格差が部活動にも影響を及ぼしているため、全体として部活動はそれほど盛んではない。このように世界の中でも日本の部活動は特殊であり、この状況を世界各国と比較したときに、日本の教師に特有の長時間労働の原因を生んでいると考えることもできる。

表2-2 世界の部活動の状況

	日本	アメリカ	イギリス	ドイツ
青少年スポーツ	学校中心	学校・地域両方	学校・地域両方	地域中心
部活動の方針	多くの生徒が通年で参加	エリート競技活動・人気競技はトライアウトも有り	レクリエーションの一つで有り、週1回や複数の部活動に所属可	学校に部活動がほぼなく、地域クラブに参加する
活動状況	活発である	活発（シーズン制）	活発ではない	地域クラブが中心
大会	基本的に全国大会まで	基本的に州大会まで	競技種目ごとに大会の在り方が様々である	競技種目ごとに大会の在り方が様々である
指導者	基本的に教員が指導	外部指導者が主流であり、教員も希望すれば指導可能	基本的に教員が指導するが、週1回なので負担は少ない	地域クラブで指導するが、教員も可能
指導目的と特徴	人間形成、生徒の教育	エリートの競技、競技力向上	レクリエーション、競技力向上	クラブ方針に基づく

出典：経済産業省「地域×スポーツクラブ産業研究会 最終提言」（2022年）を参考に筆者作成

### 2.1.3 教員の部活動への関わり

前述したように、平成28年度の文部科学省の調査によると、中学校教員の平均勤務時間は、1日11時間を超えており、その内訳として、図2-2に示すように、部活動・クラブ活動、授業準備、学校行事に時間が取られているのが分かる。また、週60時間以上の労働をしている教師とそうでない教師の差分は土日の部活動にかかわる時間が最も多く、3時間近い差を生み出していることがわかる。この課題を解決するために、文部科学省は2023年度から段階的な休日の部活動で民間などを活用した地域移行を進める方針だが、そのためには地域クラブが安定して生徒を受け入れられる経営を続けられる必要があり、つまりは今までは無料であった部活動の代わりに保護者が費用を支払うなど資金面で課題を抱えており、実現性が疑問視されている。

週60時間以上／未満勤務時間別 教諭の勤務時間内訳（中学校）						
中学校	平日			土日		
	60時間以上	60時間未満	差分	60時間以上	60時間未満	差分
回答数	3699	2721		3699	2721	
a 朝の業務	0:37	0:36	0:01	0:02	0:00	0:02
b1 授業（主担当）	3:08	3:01	0:07	0:05	0:01	0:04
b2 授業（補助）	0:19	0:24	-0:05	0:00	0:00	0:00
c 授業準備	1:33	1:18	0:15	0:20	0:03	0:17
d 学習指導	0:10	0:09	0:01	0:01	0:00	0:01
e 成績処理	0:43	0:32	0:11	0:20	0:02	0:18
f 生徒指導（集団）	1:05	0:58	0:07	0:02	0:00	0:02
g 生徒指導（個別）	0:20	0:15	0:05	0:01	0:00	0:01
h 部活動・クラブ活動	0:51	0:27	0:24	3:21	0:31	2:50
i 児童会・生徒会指導	0:07	0:05	0:02	0:01	0:00	0:01
j 学校行事	0:33	0:19	0:14	0:18	0:02	0:16
k 学年・学級経営	0:43	0:30	0:13	0:06	0:01	0:05
l 学校経営	0:23	0:19	0:04	0:05	0:00	0:05
m1 職員会議・学年会などの会議	0:20	0:18	0:02	0:00	0:00	0:00
m2 個別の打ち合わせ	0:08	0:05	0:03	0:00	0:00	0:00
n1 事務（調査への回答）	0:01	0:01	0:00	0:00	0:00	0:00
n2 事務（学納金関連）	0:01	0:01	0:00	0:00	0:00	0:00
n3 事務（その他）	0:19	0:14	0:05	0:04	0:00	0:04
o 校内研修	0:06	0:05	0:01	0:00	0:00	0:00
p 保護者・PTA対応	0:11	0:07	0:04	0:04	0:00	0:04
q 地域対応	0:01	0:00	0:01	0:02	0:00	0:02
r 行政・関係団体対応	0:02	0:01	0:01	0:00	0:00	0:00
s 校務としての研修	0:11	0:12	-0:01	0:01	0:00	0:01
t 会議・打合せ（校外）	0:07	0:07	0:00	0:02	0:00	0:02
u その他の校務	0:09	0:10	-0:01	0:06	0:01	0:05
v 休憩	0:02	0:06	-0:04	0:00	0:00	0:00
w その他	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00
合計	12:19	10:28	1:51	5:14	0:51	4:23

※勤務時間については、小数点以下を切り捨てて表示。  
 ※「教諭」について、主幹教諭・指導教諭を含む。  
 ※合計時間に休憩は含まない。また、小数点以下を切り捨てて表示しているため、各業務の合計が合計時間にはならない。

図2-2 教諭の勤務時間内訳（中学校）

出典：リベルタス・コンサルティング（2018）「公立小学校・中学校等教員勤務実態調査研究」報告書

### 2.1.4 部活動の課題

1900年代後半には、「ドカベン」1972年、「キャプテン翼」1981年、「タッチ」1981年、「スクール☆ウォーズ」1984年、「SLAM DUNK」1990年など、運動部活動をテーマにした漫画やドラマが流行となり、運動部活動が身近なものとなった。このような流行の影響を受けてスポーツを楽しみたいと生徒が思ったときに、日本では広く普及している部活動の場が、その第一候補となりうる。しかし、流行の影響でスポーツを楽しみたい層と勝ち負けに拘り取り組みたい層では、部活動への取り組みが異なるのは容易に想像できる。これら生徒の取り組みの違いに加え、部活動の目的を生徒の自主性を育む場として考えるのか、勝ちに拘るアスリートを育成する場として考えるのかによって、教師の取り組み方も変わると考えられる。さらに忘れてはいけないのは、家庭の経済格差による影響によらないように部活動の機会の提供を考えることである。

そして、現在の部活動の改革において①指導者の問題②大会問題③勝利至上主義とエンジョイ志向のギャップ④受け皿（連携先）である地域クラブの経営問題における4つの課題があげられる。これらの課題を解決するためにもそれぞれの立場の人たちが価値を感じられる継続可能な運営体制を考える必要がある。

「開かれた学校」（浦野，2003）の中では、学校を開けば子どもは良くなると言われているとおり、運動部活動についても学校外にできるだけ開かれたものとするのが重要となる。教員や生徒、保護者はもちろん、地域の人々や学校に出入りしている企業関係者など学校に関わる全ての方々が、部活動についての前向きな議論を行うことがいま重要である。

## 2.2 総合型地域スポーツクラブ（地域スポーツクラブ）

総合型地域スポーツクラブの設置とは、日本における生涯スポーツ社会の実現を掲げ、1995年より文部科学省が実施するスポーツ振興施策の一つである。幅広い世代の人々が各自の興味関心・競技レベルに合わせ、さまざまなスポーツに触れる機会を提供する、地域密着型のスポーツクラブである。また、背景に前述した通り、多世代・多種目・多志向という3つの特徴を持っており、地域住民により自主的・主体的に運営されるクラブである。さらに地域住民が主体となり、自治体と連携しながら設立し、運営を行うことが理想的である。設立や運営方法については、地域の特徴によって様々なパターンがある。任意団体ではなく、NPO法人や社団法人などの法人格を取得し、体育館や運動施設等を指定管理しながら運営しているクラブは比較的安定した運営ができています。また、総合型地域スポーツクラブでは、受益者負担の考え方により参加者から会費を徴収している。ここには、自治体や企業の負担という考えはない。また、運営者・指導者・受講者が地域住民なので「住民の住民による住民のためのスポーツクラブ」と呼ばれることがある。まさに世代を超えて地域住民全体での活動を目指したクラブである。指導者には謝金も支払うことで報酬無しのボランティアとはしていない事が多い。またクラブによっては、定期的なスポーツイベントや、災害時の避難所運営、全国のネットワークを活かした被災地支援等、スポーツのみならず様々な活動を行っているところもある。

図2-3の通り、創設準備中を含め、全国に3,583クラブが設置され、総合型地域スポーツクラブが一つ以上ある市区町村の割合を示す「クラブ育成率」は、全国平均で80.9%となった。2014年以降、「クラブ数」「クラブ育成率」は横ばいが続いており、市部と町村部で差がでる傾向がある。将来的には、それぞれの中学校区の地域に総合型地域スポーツクラブを設置して学校部活動との連携が期待されている。

JSCO（日本スポーツ協会）は、より公益性の高い社会的な仕組みとして、永続的に充実した活動を行えるよう、2022年度から「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」を始めた。文部科学省の提言により、2023年度より「学校部活動」が徐々に地域へ移行するための受け皿（連携先）として期待されている。

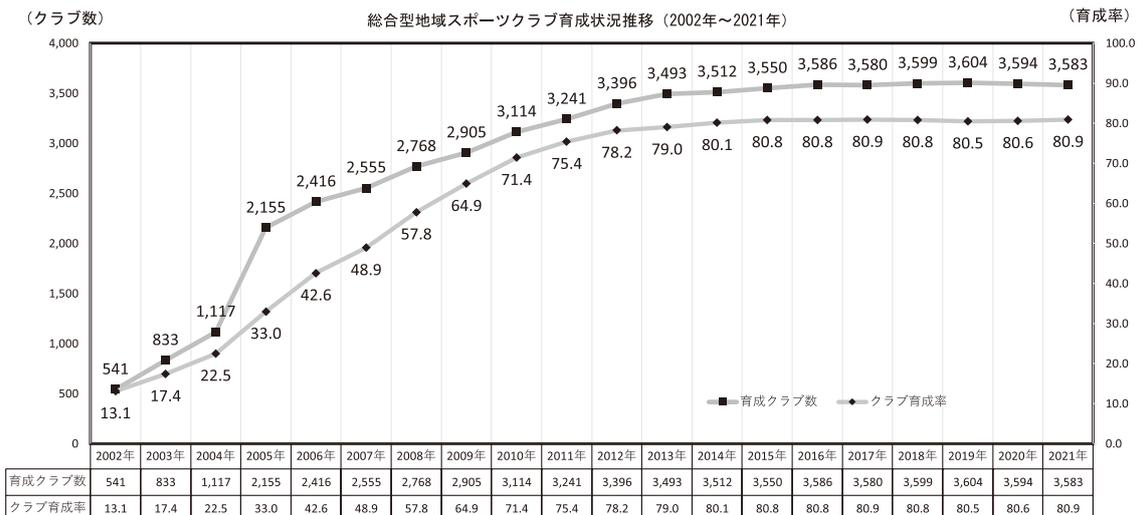


図2-3 総合型地域スポーツクラブ育成状況推移

出典：文部科学省・スポーツ庁「総合型地域スポーツクラブに関する実態調査」結果に基づき筆者作成

図2-4より、1クラブあたりの会員数の割合は、会員101名～300名規模のクラブが43.1%占めている。また、会員300名以下のクラブが73.6%であることが分かる。今回の実践の対象クラブであるラ

ビッククラブ湘南二宮は会員88名（2021年）であり、比較的少人数で、参加者はその地域に係わる人たちで構成されている。

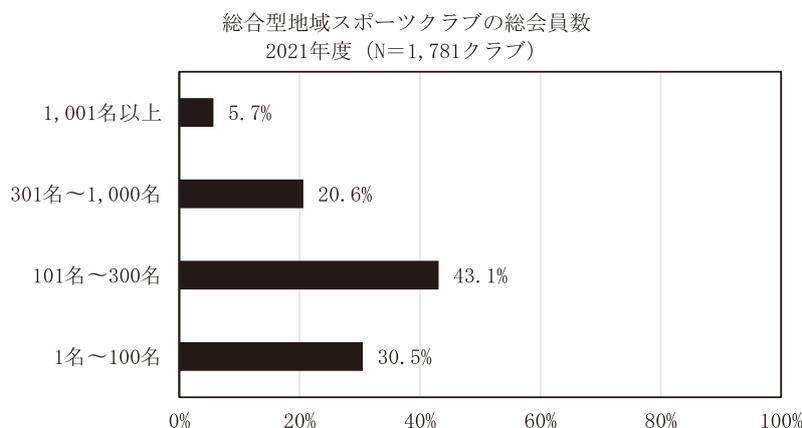


図2-4 総合型地域スポーツクラブの総会員数

出典：文部科学省・スポーツ庁「総合型地域スポーツクラブに関する実態調査」に基づき筆者作成

図2-5では、中高生が参加可能な種目では、サッカー部、卓球、バドミントン、バレーボールと続き、既存の部活動の種目と重なるのが分かる。これらの種目であれば活動場所が既にあるため部活動

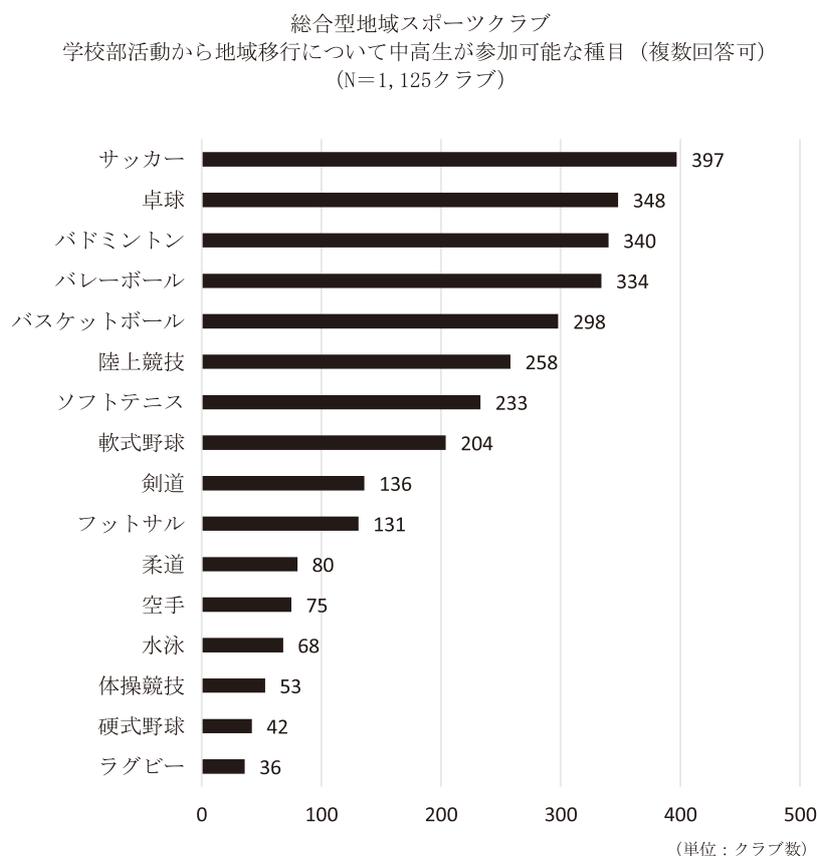


図2-5 総合型地域スポーツクラブ学校部活動から地域移行について中高生が参加可能な種目

出典：文部科学省・スポーツ庁「総合型地域スポーツクラブに関する実態調査」に基づき筆者作成

からの移行も比較的容易に行えると考えられる。一方でマイナーなスポーツの受け皿がない問題が生じるであろうことも推測できる。図2-6より、42.2%が「会費・参加費など受益者負担による財源確保」を財源についての課題としてあげている。このことから、会費・参加費だけでクラブを運営していくことは難しいことが分かる。さらに、図2-7より、人材確保等でのクラブの課題として、69.2%が人材の世代交代・後継者確保をあげ、57.5%が指導者の確保（育成）を問題としてあげていることから、クラブの経営にとって指導者の質が重要であることが分かる。部活動と安定して連携できる地域クラブの運営を実現するために、これらの課題を解決することが必要となる。

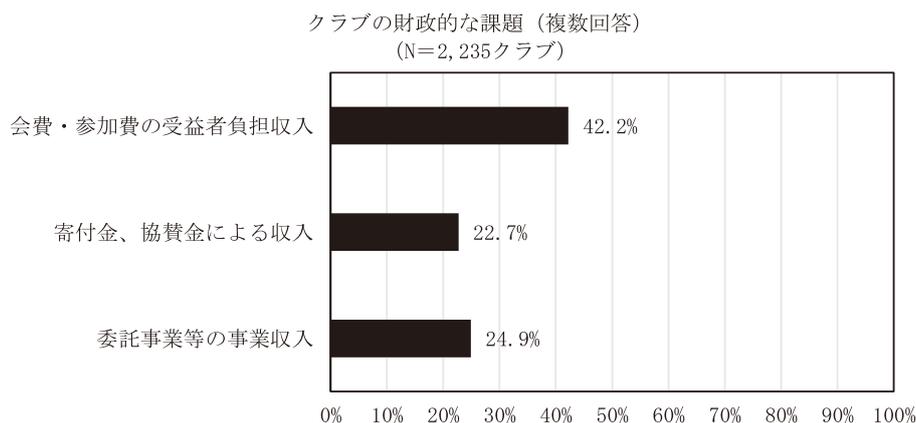


図2-6 総合型地域スポーツクラブ クラブの財政的な課題

出典：文部科学省・スポーツ庁「総合型地域スポーツクラブに関する実態調査」に基づき筆者作成

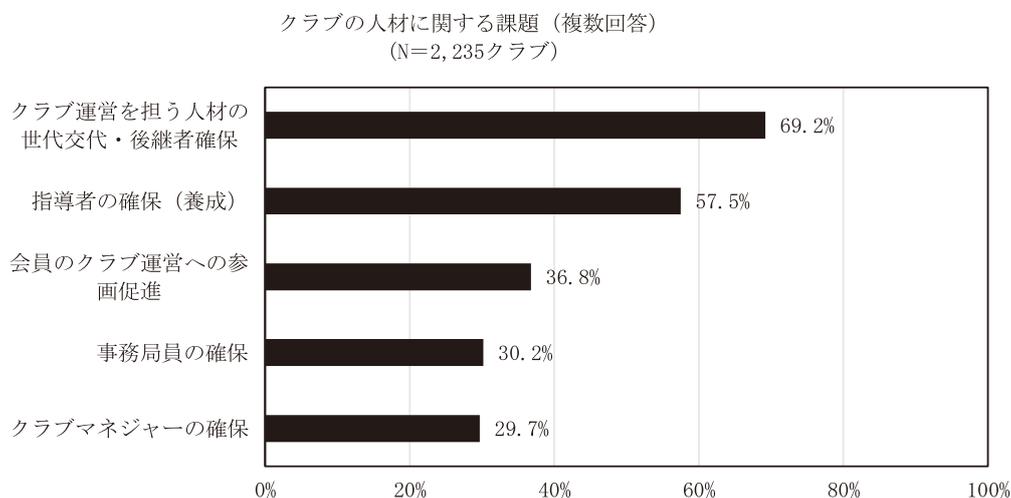


図2-7 総合型地域スポーツクラブ クラブの人材に関する課題

出典：文部科学省・スポーツ庁「総合型地域スポーツクラブに関する実態調査」に基づき筆者作成

### 3. 実践報告

#### 3.1 フィージリビリティスタディ事業の目的と概要

経済産業省は、スポーツ産業の領域の中で、スポーツ関連のイベント・指導業・施設や用品やフィットネス業等を管轄としている。文部科学省が2020年9月に示した「2023年度から休日の部活動を段

階的に地域移行する」との方向性に呼応し、「地域×スポーツクラブ産業研究会」を2020年10月に発足した。

経済産業省の「地域×スポーツクラブ産業研究会報告資料『未来のブカツ』ビジョン」(2022)によると、この発足の背景には、2つの問題意識があった。①日本における「サービス業としての地域スポーツクラブ」の可能性②ジュニア世代のスポーツ基盤である「学校部活動」の持続可能性に関する2点である。①については、会員制のフィットネスクラブ、サッカーJリーグ、バスケットボールBリーグのようなイベントやスクール事業は成長している一方、地域のスポーツ少年団や草野球チーム、ママさんバレーボールクラブ、総合型地域スポーツクラブは、ボランティア主体の運営がほとんどであり、安定した収益を確保できるサービス業として存続できる可能性には疑問が残る。②については、部活動がスポーツ環境基盤を構築し、中学生世代への生活指導や家庭環境に由来する課外活動機会の格差を是正する側面をもつ一方、教員の過重労働や少子化の進行による学校単位での部活動を存続させる難しさにより、持続可能性が問題となっている。

そこで、経済産業省は、上記2つの問題意識のもと、スポーツ産業としての収益性と持続可能性を高めた「サービス業としてのスポーツクラブ産業」が、学校部活動の地域移行の受け皿(連携)サービスや全世代型のスポーツ環境を提供する地域密着型サービス業へと進化し、新しい社会システムとして地域社会・経済の新しいエンジンに成長する可能性を目的として実証事業を行った。具体的には、全国10カ所で2021年9月から2022年2月までの半年にわたって「未来のブカツ」FS事業を実施した。

### 3.2 ラビッツクラブ湘南二宮とその地域

全国10カ所の中の一つとして、小都市である神奈川県中郡二宮町の小規模である「ラビッツクラブ湘南二宮」が選ばれ、FS事業を2021年9月から2022年2月まで実施した。ここで神奈川県中郡二宮町について紹介する。神奈川県西に位置する人口27,564人(2020年10月)で、面積は9.08km<sup>2</sup>の自治体である。公立の小学校が3校で児童1,180名(2022年9月)、中学校2校で生徒611名(2022年9月)である。相模湾に面し、温暖な気候で東京から70km(電車で約1時間20分)の距離であるが、近年は少子高齢化、人口減少が止まらず、2014年の日本創生会議では「2040年に消滅の可能性がある自治体」と指摘されている。

部活動地域移行の背景の一つとも言えるのは少子化問題である。公立中学校の生徒数が、1986年に比べ2021年はほぼ半分になっている。そして、重要なのは公立中学校の生徒数が減少しているのに対して、部活動の数が減っていないこと、つまり部活動に入ったとしても、部員数が少なすぎて試合や活動を思うように行えない生徒が出てきていることである。これは、現状の運動部における大きな課題となっている。このような状況を表す兆候として、日本中学校体育連盟の2021年度 加盟校・加盟生徒数調査集計表によると、2021年度の複数の中学校の生徒からなる合同チームの数は1,793チームで、2011年度の622チームの約3倍に増えており、単独の中学校では大会に出られるほどの人数を集められなくなっていることが窺える。現に筆者の地域である二宮町の中学校もその課題に直面している。2020年は隣町の中学校と合同チームで参加した。2021年は隣町の中学校のサッカー部の人数が増えたので合同チームとする必要がなくなり合同チームは解消されたが、二宮中の方は人数が足りないという状況は変わっていなかったため、試合に出るためには他の運動部から協力を得る必要があり、不安定な活動状況となってしまった。2022年はサッカー部の人数が増え、単独チームで出場できるが、この3年間でもチームの方針や選手も変わり、変化が多いことで生徒の困惑を招いている。

本気でスポーツを楽しみたい生徒たちが満足できる環境が整っていないのは、スポーツを辞めるきっかけにもなりかねない。試合に勝ちたい、スポーツを楽しみたいなど異なるニーズを持つ生徒た

ちの活動場所を分けられていないことや、人数が少なく一つの中学校だけではチームを存続できないという課題の解決に向けた動きとして部活動地域移行が有効でないかと考えられている。部活動を民間事業者や地域のスポーツクラブに移行することで、中学校単位よりも広い範囲でのチーム編成が行えるため、上記のような“選手の人員不足”の解消が期待されている。

また現在の公立中学校には部活動への参加を義務付ける学校も存在し、生徒の主体性や自主性に沿ったものとは言えない。部活動地域移行が進むことで、子どもたち自らが“スポーツの楽しみを味わう選択”を与えることをスポーツ庁は目指している。そこで、2017年に神奈川県二宮町にて「楽しさが、行動を変え、人生を変える」をコンセプトに、町民による町民のための町民のスポーツクラブとして設立し、勝利至上主義ではなく、エンジョイ志向で活動している。現在は、総合型スポーツクラブとしては、創設準備中であるが、地域密着型スポーツクラブとして活動して、持続的に活動している。現在の会員は、幼児・小学生を中心にパパママまでの層まで参加。2021年の会員数は88名である。会員は、昔からの住民はもちろん、Uターン・Iターンで二宮町や周辺自治体に住んでいる方も増えてきた。他の地域ではこのようなコンセプトのクラブはほとんどない。また、地域密着型クラブの設立は、町民同士の交流を活性化させ、さらには町外からの参加も増やすことで、交流人口や関係人口の増加も狙った策である。最終的には、関係人口を増やして、交流人口の増加に繋がることが重要である。

ラビッツクラブ湘南二宮に関わる人材の最近の傾向としては、次の3つがある。①二宮町出身の大学生や20代後半の社会人が集まる場所となっている。②パパ同士のコミュニティが形成されている。③他団体との連携事例も増えている。

### 3.3 実践方法

2023年度からの段階的な地域クラブ移行にあたり、地域交流を手がけている株式会社JTBと二宮町教育委員会と連携してFS事業を行った。具体的には、クラブ運営スタッフ、教育委員会、教員、商工会議所、JTBなどが参加する検討会を2021年9月から2022年2月までに13回開催し、公立中学校の体育館を活用したラビッツクラブ湘南二宮でフットサル事業を2021年12月から2022年1月までに7回開催した。フットサル事業の中で、教員やトライアル指導を受けた生徒・保護者全23名（うち教員18名、生徒11名、保護者4名）に対するアンケートを実施した。生徒・保護者・教員向けに使用したアンケートを巻末に付す。

### 3.4 実践結果と考察

国が進めている部活動の地域クラブ移行に、地域スポーツクラブの立場から受け皿となり得るのかを明らかにするため、アンケートの結果から必要な結果を抜粋して表3-1、表3-2、表3-3、また図3-1から3-5に示す。これらの結果を元に下記の3点の視点で考察した。

1点目は、効果的・効率的な運営である。地域のクラブが提供する指導者の質と世代にあわせた指導内容のマニュアル化である。

2点目は、持続的なクラブ経営に向けての収益の確保を探ることである。

3点目は、学校部活動との関係整理である。教育委員会や学校教員と研究会を発足し、情報共有や課題を整理することである。

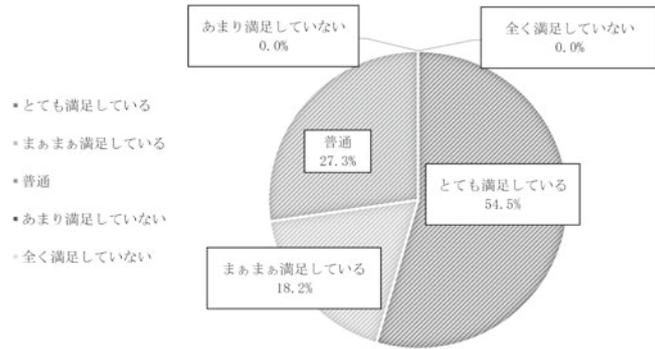


図3-1 生徒アンケート「フットサルの全体的な感想について」(N=11)

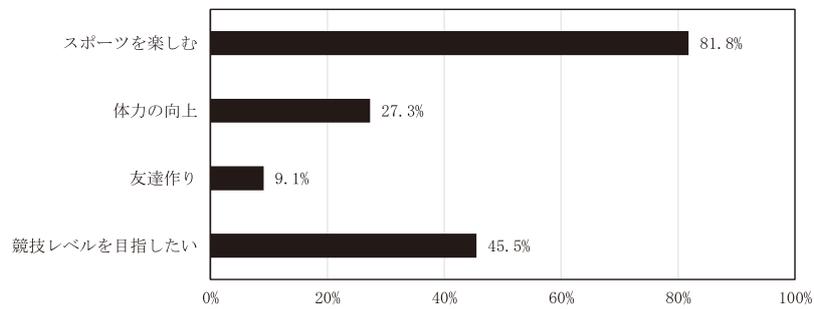


図3-2 生徒アンケート「地域のクラブや学校の部活動に期待することは何ですか？」(N=11)

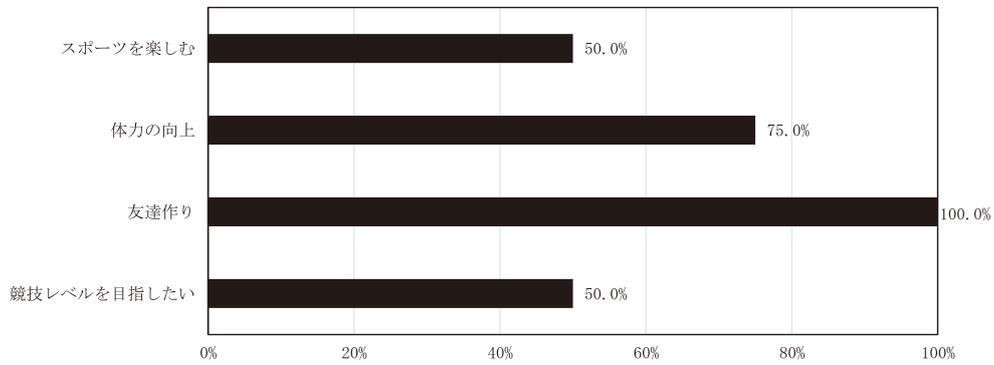


図3-3 保護者アンケート「保護者様の視点で、地域のクラブや学校の部活動に期待することは何ですか？」(N=4)

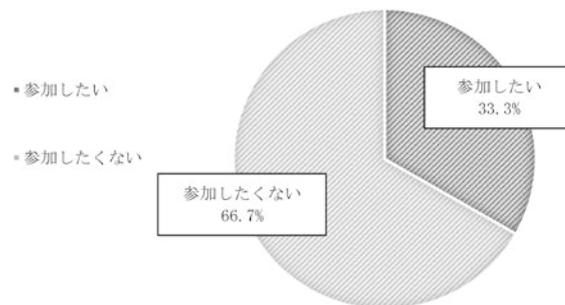


図3-4 教員アンケート「教員の兼業副業について」(N=18)

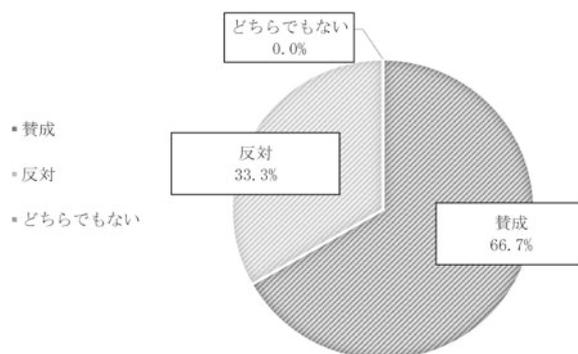


図3-5 教員アンケート「地域クラブ移行について」  
(N=18)

表3-1 生徒アンケートの記述結果

質問項目	アンケート結果
今回、フットサルに参加した感想やご意見などをご自由に記入ください。	<p>「楽しかったです!」「楽しかったです!またやって欲しいです。」「フットサルの基礎からゲームの流れまで、丁寧に優しくアドバイスしてくれて、とってもプレイしていて楽しいし、やりやすかったです。サッカーとフットサルは違うところが多いけど、フットサルの技術を学んで、しっかりサッカーでも活かしていきたいです。」</p> <p>「今回中学校でフットサルをやってみて、今まではフットボールの扱い方をあまり知らずに行っていて、今回のフットサルでそのようなことが分かってよかった。フットサルで習ったことを今後部活でもしたいと思った。」</p> <p>「今まで、フットサルはしたことがなかったが、初めてなのにわかりやすく教えてもらい、基礎などもわかった。またこのような機会があったら友達を誘っていききたいです。」</p> <p>「フットサルでのトラップの仕方やボールの蹴り方など部活動で教わらないことを今回のフットサルで知れてとても良かったです。」</p> <p>「やさしく教えてくれたり、わかりやすい方法で教えてくれたりとかがとても良かったです。」</p>

表3-2 保護者アンケートの記述結果

質問項目	アンケート結果
今回、フットサルに参加した感想やご意見などをご自由に記入ください。	<p>「部活動を廃止してフットサルにすると、サッカー自体やめてしまうことも出てしまう。部活動としてなら入りやすい。」</p> <p>「最近、先生の負担軽減のため部活動を少なくする傾向にあるように感じます。部活動の良さはあるので部活動はありつつ、少なくなった分を希望する人は、今回のようなクラブに参加できると良いと思います。」</p> <p>「動画共有はありがたかったです。大変だと思いますので毎回じゃなくても良いのでやっていただくと、子供の様子などが見ることができ、とても嬉しいです。子どもにとってスポーツは精神的な成長にも繋がると考えているので、続けられる環境を提供してもらえるのはありがたいです。」</p> <p>「二宮町は少子化が進み、団体スポーツは一つの中学校で大会にでるのは難しくなってきた。」</p> <p>「地域クラブ移行の際に、種目が減ることはスポーツをするきっかけを減らすことにつながってしまう。大磯町や中井町の隣接地域と連携し、種目の選択肢をある程度確保する必要はある。」</p> <p>「中学生の世代は親子間でのコミュニケーションが少ないので、練習の様子を動画で見ることができるとは親への付加価値としてつながる。」</p>

<p>今回、フットサルに参加した感想やご意見などをご自由に記入ください。</p>	<p>「これまで部活動では、月謝がなかったのに、なぜ地域クラブに移行するのかも分からないし、月謝がかからなかったものがかかるようになってしまうのか、わからない」  「試験前休みがとれる。塾のための欠席もできる。入試前の引退時期も早い。怪我が多いので休むことも多い等の理由で部活にしたので、別の形になるのは不安」</p>
--	---

表3-3 教員アンケートの記述結果

質問項目	アンケート結果
<p>受益者負担について</p>	<p>「受益者負担による経済格差が起こる可能性がある。所得が一定以下の生徒には支援制度構築が必要である。」  「家庭における経済的負担、練習や大会に参加する移動費の負担もでてくる。」</p>
<p>教員の兼業副業について</p>	<p>指導をしたい理由：「部活動指導が好きだから」「教育上生徒とのかかわりを持つ必要があるから」  部活動の指導をしたくない理由：「休日は自分の時間にしたいから」「過重労働解決にならないから」「本来部活動に興味がないから」</p>
<p>地域クラブ移行について</p>	<p>「部活動をやらないことへの教員の業務軽減により、離職率が下がるのではないか」  「現状、業務量的に部活動を見るのが厳しい」  「地域移行後の受益者負担でスポーツをする生徒が減るのではないか」  「本当に教員の業務量が減るのか、地域移行までの時間がかかりそう」</p>

### 3.4.1 効果的・効率的な運営

指導者の指導の統一を図るために、「エンジョイ志向のクラブ活動」をコンセプトに指導マニュアルを作成した。図3-6にスタッフ方針、コンセプト、指導マニュアルを示す。トライアル指導では、中学校の学習指導要領とクラブのコンセプトを組み合わせ実施。指導の共有のためにクラブ間の指導者で共有と、中学生はあまり親とコミュニケーションをとらないため、保護者にも動画を共有した。図3-1に示すように80%が満足、20%が普通という結果から、地域クラブのコンセプトである「楽しむ」ことが伝わったと考えられる。また、自由回答では「このような機会があったら友達を誘っていききたい」といった回答を得られており、このことから生徒は概ね満足していたと考えられる。また「部活動で教わらないことを教わった」「わかりやすい方法で教えてくれた」といった回答は、指導者の質の担保と指導者同士の情報共有がうまくいっていたことを示している。また、表3-2に示すように「動画の共有で子どもの様子が見られてよかった」「中学生世代は、親子間のコミュニケーションが少ない時期でもあるので、練習を見られることは親への付加価値にもなる。」といった回答は、スタッフの方針（図2-8）でも示すホスピタリティを持った行動の結果とも言える。

以上の結果から、指導者の指導の統一を図るためにマニュアルを作成すること、練習の風景を動画で撮影し、保護者はもちろんスタッフ内でも共有することには、一定の効果があると言える。今後部活動の受け皿として、新たな種目を追加する際や新たなクラブを新設する際に、指導者の質を保証し、生徒や保護者が安心して活用できるクラブとするためにも、今回のようなマニュアル作成や動画の撮影と共有は積極的に行われるべきである。

## 1、スタッフ方針

### クラブ理念

楽しさが、行動を変え、人生を変える

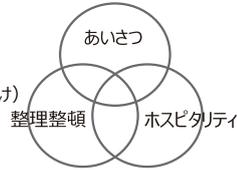
### スタッフ目標

・イキキと活躍している先輩（社会人、大学生）の姿を見せることで**生徒の見本**に

- ・生徒と一緒に**楽しむこと**を重視する。
- ・**積極的なコミュニケーション**をとる（参加者、スタッフ同士）

### スタッフ行動指針

- ①**あいさつ**（生徒、保護者、外部関係者、スタッフ全員への徹底）
- ②**整理整頓**（荷物を揃える、靴を並べる、用具の管理、ピスの片付け）
- ③**ホスピタリティ**の精神を持つ（目配り、気配り、心配り）  
目配り・・・視野を広く、生徒やスタッフ同士の動きを把握  
気配り・・・生徒は名前によぶ、個性をつかむ、声かけ  
心配り・・・生徒の感情をよむ（楽しんでいるかどうか）



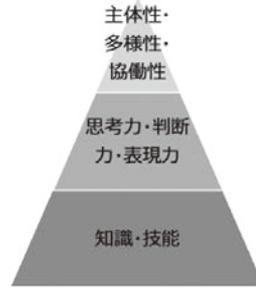
## 2、生徒の生きる力を育む

変化の激しいこれからの社会の中で、「生きる力」学力の3要素が必要とされている。ラビツククラブ湘南二宮では、特に②思考力・判断力・表現力に重視した指導を行っている。

①**主体性・多様性・協調性**  
学んだことを人生や社会に生かそうとする  
「主体性・多様性・協調性」の力。  
どのように社会と関わり、より良い人生に繋げる。

②**思考力・判断力・表現力**  
知識・技能の上に設定される「思考力・判断力・表現力」。  
今後さらに変化が激しく将来の予測が困難な社会では、  
問題を発見し、解決の方向性を決め、方法を探して計画を立て、  
解決策に向けて実行する力が必要となる。

③**知識・技能**  
「知能・技能」、は実際の社会の中で生活し働くために必要。  
これは「何を理解しているのか、何ができるのか」を示すものである。  
学力の3要素の土台となる。



参考：新学習指導要領リーフレット  
[https://www.mext.go.jp/content/20201209-mxt\\_daigaku02-100014554\\_38.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201209-mxt_daigaku02-100014554_38.pdf)

## 3、指導マニュアル

項目	目的	手法
生徒集合	あいさつ、整理整頓	・スタッフによる声かけ
ミーティング	全体や個人の目標設定	・全体説明 ・自己紹介
アイスブレイク	導入、準備運動に繋げるための準備	・身体や脳をほぐす
準備運動	コミュニケーション、チームワーク、怪我予防	・全員同じメニュー ・生徒、スタッフとのやりとり
基礎練習	楽しむための「スキル」や「戦術」を理解する	・パス、ドリブル、シュート ・3人目の動き、シュートパス
対人練習	インプットしたものをアウトプットする	・2対1、3対3
ゲーム（試合）	考える、判断し、表現すること、マネすること	・5対5
ミーティング	振り返りとまとめ、次回の案内、リーダーから感想	・クールダウン ・全体
片付け	感想共有	・スタッフによる声かけ

図3-6 スタッフ方針，コンセプト，指導マニュアル

出典：筆者作成

### 3.4.2 持続的なクラブ経営に向けての収益の確保

表3-3の「受益者負担による経済格差が起こる可能性がある」「家庭における経済的負担、練習や大会に参加する移動費の負担もでてくる」といった結果から、収益の確保は大きな課題であると確認できた。また表3-2保護者や表3-3教員へのアンケート結果では「月謝がかかるのは理解できない」「経済格差が起きる」「移動費用の捻出はどうするのか」という発言が得られていることから、これまでほぼ無料であった部活動が、有料となることへの不満や不安があることが確認できた。一方で、クラブのスタッフでは「無報酬では継続的なサポートは難しい」「ホームページ運営や怪我や事故などの危機管理体制、指導者の教育において内部の費用はかかる」という発言のように、クラブを経営するのもお金がかかり、町の財源でも捻出が皆無に等しく、企業協賛の可能性も今のところは難しい状況であることが確認できた。

以上の課題の確認から、これまで参加費無料であった部活動から受益者負担で集めることは非常に難しく、また指導者もボランティアで継続することが難しいことがわかった。今後は、行政から受益者負担となる説明責任が必要であり、また行政での財源確保、企業の協賛から資金を調達し、指導者にも謝金を支払う持続的なクラブ経営が必要となる。

現在では「部活動の地域クラブ移行」の認知度が低いことも原因であると考えられる。国や自治体、メディアなどで発信していくことが急務である。

### 3.4.3 学校部活動との関係整理

図3-2より、地域のクラブや学校の部活動に期待することとして、「スポーツを楽しむ」81%、「競技レベルを目指したい」45%の結果と参加した生徒の声から勝利至上主義ではなく、「スポーツを楽しむこと」が優先順位高いことがわかる。しかし、競技レベルを目指したい生徒も少なくないため、モチベーションごとに生徒の受け皿となるクラブは学校部活動と連携して整備する必要がある。一方で、図3-3に示すように保護者が地域のクラブや学校の部活動に期待することは「友達づくり」が100%であり、次に「体力の向上」が75%と続き、部活動やクラブへの期待することは「人とのコミュニケーション」や「チームビルディング」、「体力づくり」であることがわかる。このような生徒と保護者の考え方の違いも学校部活動とクラブの間で整理すべき事項である。

学校と地域クラブの関係として教員の兼業副業という選択肢もあるが、図3-4に示すように、部活動の指導をしたいという教員は33.3%であった。その理由として、部活動指導が好きだから、教育上生徒とのかかわりを持つ必要があるからなどがあげられた。一方で、部活動の指導をしたくない理由としては、休日は自分の時間にしたいから、過重労働解決にならないから、本来部活動に興味がないからなどがあげられた。一方で図3-5に示すように地域クラブ移行について賛成は66%以上となり、反対と答えた人はいなかった。

2021年10月より、教育委員会や学校教員と、本事業の内容共有と今後に向けての研究会を発足し、情報共有や課題を整理することを行った。9月の段階では研究会に参加する教員は少なかったが、だんだんと研究会に参加する教員も増えた。また筆者が参加した研究会の会話の中でも現状の悩みや不満を言葉にすることが増え、本気で課題に向き合おうと参加者の気持ちに変化していくことを感じた。これは研究会を重ねるにつれて、教員からの本音も聞き出すことができるようになってきたことを示していると考えられる。また、筆者と文化的な部活動を担当している教員との会話の中では「吹奏楽部等の文化部についても移行を考えてほしい。指導以外の業務量が多すぎる」といった発言を得ており、地域クラブ移行への賛同と期待をいただけたものと考えており、運動部だけでなく文化部にも地域クラブへの移行ニーズがあることが確認できたため、今後は文化部の地域クラブ移行の課題についても検討していく必要がある。

## 4. おわりに

### 4.1 今後の方向性

図4-1の目指すべき姿の理想図の通り、今後はNINOMIYAモデル（二宮地域スポーツクラブ・放課後総合サービス）の構築をラビッツクラブ湘南二宮と二宮町教育委員会と中学校で連携して目指していく。運動部、文化部の種目を整理し、プログラミング部やまちおこし部、e-sports部の設置や、学校施設を有効に使い、空き教室を学習塾やリカレント教育や生涯学習の場として施設を提供する。また、地域内外企業からの寄付や協賛など資金面での協力を得ることも考えた。指導者は、町内団体や

### 目指す理想像

二宮町から運営委託された協議会／実行委員会を中心に、幼児～高齢者の世代間のタテの交流と、各種目や企業とのヨコの連携が可能な「二宮地域スポーツクラブ」の設立を目指す

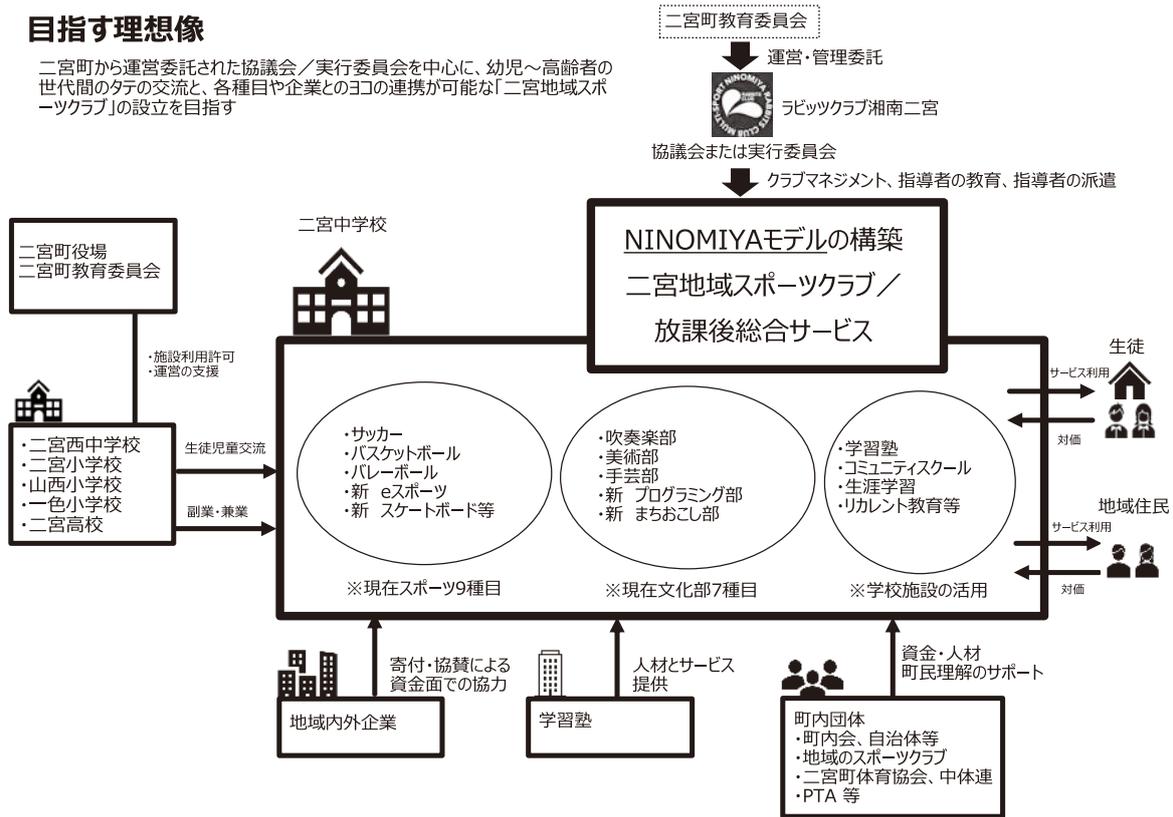


図4-1 目指す理想像

出典：筆者作成

PTAと連携して、クラブのコンセプトに共感し、指導者の質を保証とともに派遣するモデルを考えた。また、小学校や高校との連携を行うことで一貫した部活動のサポートを行うことで交流も可能となり、より地域への愛着も高めることができる。

今回の事業を終え、二宮町教育委員会は、これまで無料だった部活動を保護者からの受益者負担にすぐにかえることはできないことと、指導者を任免することの課題から、現在行なっている種目を外のクラブ側で全て提供することはできず、今回考えた「NINOMIYAモデル」を、議会を通さずにすぐに動かすことはできないという理由から、最終的に町の方針として「国の方針を見てから」目指すべき姿のNINOMIYAモデルを始めることとなった。また、研究会では、中学校が2校と少ないため、それだけを対象としたクラブ運営では収益構造上成り立たないという懸念から、収益源を確保するために生涯学習とも連携させる必要性が示された。社会人向けの生涯スポーツの場の提供や、学校施設を活用したりカレント教育の場とすることで、社会人にも運営に必要な経費を負担してもらうことで安定したクラブ運営を行うことを狙いとする。

### 4.2 今後の課題

表3-2の「保護者の受益者負担に対する不安」や表3-3での「教員の部活動の負担」といった結果から部活動が学校教育から切り離し、社会教育となり、受益者負担を基本とした活動になるのであれば、保護者や子どもたちに十分な説明が必要になることが強く確認できた。説明を行うために教育委員会が広報活動を行うことやPTAの組織での発信をしていくこと、小学校と中学校で定期的な地域クラブ移行の価値を伝えることで効果を発揮できると期待できる。外部指導者、部活動指導員については、教員・生徒・外部指導者・部活動指導員の守備範囲を明確にし、何のために、どのような協力

を求めるのかを検討して十分な協力体制を築くことが重要である（神谷，2020）ということも今回の研究会で再認識できた。勉強会や研究会を行うことで共通認識を作る効果が確認できたため、今後も継続して開催していることが重要である。表3-2の「部活動の指導をやりたい教員が67%はいる」といった結果から学校か地域ではなく、学校と地域で一緒になり部活動をサポートすることが重要であることが明らかになった。

一方で、今回の実践の中でのアンケート数は生徒11名、保護者4名、教員18名となるため数が少なく一般化はできない。数を増やすことと地域の特性が近い自治体で検証する必要がある。また企業の協賛の可能性における調査や学校施設の活用についての調査は不十分であるため、今後この二宮町での持続的なクラブ経営を目指すためにも収益の可能性を探る必要がある。

一方で、表3-3の「教員が反対の声がない」「教員の離職率が減る」といった結果から今回の経済産業省のFS事業をきっかけに、部活動の地域クラブ移行へ一歩踏み出すことができたのは一定の成果と言える。学校としては教員の労働時間の削減、地域クラブとの連携、行政は受益者負担の説明責任、地域クラブは持続的な経営と指導者の質の担保など乗り越えるべき山は多くあるが、学校、行政、地域クラブで力をあわせて継続的に実践を続けていく必要がある。

今回の実践の目的である国が進めている部活動の地域クラブ移行に、地域スポーツクラブの立場から受け皿となり得るのかについては、3つの視点の条件を満たすことが重要である。効果的・効率的な運営と持続的なクラブ経営ができるよう収益の確保、さらには学校部活動に関わる教育委員会・学校・地域クラブ・企業とそれぞれが定期的に情報共有しながら、勉強会の開催や研究会の発足、トライアルを一定の種目で実施するなど前向きな検討を進めることで学校と連携したクラブの運営の実現に近づくと期待できる。

#### 4.3 まとめ

今回実施したFS事業の生徒アンケートの中で「楽しむ」ことを重視していることが分かった。楽しむとは、「したい気持ち」と「できる状態」が繋がったことをいう。そして、楽しむ練習の3つの方針は「決める」・「交わる」・「ふり返る」が重要という（中澤，2017）考えから部活動の各種目を生徒が主体的に楽しむ時間とする必要がある。一方で、まだまだ勝ち負けにこだわる生徒もいることを忘れてはいけない。生徒が自分の好きな場所と方針を選択し、目標に向けて部活動を行う環境を整えるべきである。

クラブを持続的に経営するためにも、スタッフや指導者がボランティアで成り立つクラブではなく、安定的に継続できる経営を目指すべきである。スポーツ地域マネジメントにおいて、経済的な成功を収めるためには、①地域資源の価値を最大化して、域外からの資金を獲得する方法②域内資金の外部流出を抑制する方法③域内資金循環の拡大と域内消費のスピードアップ（原田，2020）の3つの方法がある。これを参考にすると、単なる指導者を派遣して謝金を受益者負担から貰う仕組みではなく、リカレント教育や生涯学習の場として学校施設を活用することで場所の提供として経済を生み出すことや協賛企業や企業版ふるさと納税制度の活用など収入源を広げることが重要となる。そして、その地域にあわせてクラブが持続的な経営ができるよう考えるべきである。

いよいよ2023年度から部活動の地域クラブ移行が段階的に始まる。これまで部活動は学校教育の一環だったが、その主体を学校から地域クラブに移す方針だ。本実践では、部活動の現状を整理し、地域クラブでの実践事例をもとに課題を抽出した。しかしながら、27,000人の小さい町での取り組みのため一般化はできない。生徒はもちろん教員、地域のクラブや団体とそれぞれのステークホルダーが幸せになる解決策が必要となる。今後は、さらに他地域の実践事例も参考にしながら、継続的に実

践および研究していきたい。

## 謝辞

本実践を進めるにあたり、経済産業省、株式会社JTB、二宮町教育委員会の皆様には実践を行う上で多大なるご協力をいただきました。また、二宮町立二宮中学校、二宮町立二宮西中学校の皆様には研究会の参加やアンケートの調査に際して貴重なお時間を割いていただき心より御礼申し上げます。この場を借りて深く感謝申し上げます。

## 参考文献

- 荒井貞光（2003年）『クラブ文化が人を育てる 学校・地域を再生するスポーツクラブ論』青弓社
- 浦野東洋一（2003年）『開かれた学校づくり』同時代社
- 神奈川新聞「部活動は今 地域クラブ」2022年5月6日 朝刊 24
- 神奈川新聞「部活動は今 受益者負担」2022年5月11日 朝刊 20
- 神谷拓（2020年）『部活動学・子どもが主体のよりよいクラブをつくる24の視点』ベースボール・マガジン社
- 教育新聞「どうする部活の地域移行 先行事例の模索で見えた課題」[https://www.kyobun.co.jp/news/20220531\\_03/](https://www.kyobun.co.jp/news/20220531_03/)（最終閲覧日：2022年5月21日閲覧）
- 経済産業省（2021年）「地域×スポーツクラブ産業研究会 第1次提言」地域×スポーツクラブ産業研究会 <https://www.meti.go.jp/press/2021/06/20210625005/20210625005.html>（最終閲覧日：2022年12月3日）
- 経済産業省（2022年）「地域×スポーツクラブ産業研究会『未来ブカツ』ビジョン」[https://www.meti.go.jp/shingikai/mono\\_info\\_service/chiiki\\_sports\\_club/20220928\\_report.html](https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/chiiki_sports_club/20220928_report.html)（最終閲覧日：2022年12月4日）
- 経済産業省（2022年）「『未来のブカツ』実証事業成果報告2021：株式会社JTB」「未来の教室」実証事業 <https://www.learning-innovation.go.jp/verify/b0127/>（最終閲覧日：2022年12月4日）
- 経済産業省（2022年）「地域×スポーツクラブ産業研究会の最終提言『未来のブカツ』ビジョンについて」[https://www.meti.go.jp/shingikai/mono\\_info\\_service/chiiki\\_sports\\_club/20220928\\_report.html](https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/chiiki_sports_club/20220928_report.html)（最終閲覧日：2022年12月4日）
- 高松平蔵（2020年）『ドイツの学校には なぜ「部活」がないのか』晃洋書房
- 中澤篤史（2014年）『運動部活動の戦後と現在』青弓社
- 中澤篤史（2017年）『そろそろ、部活のこれからを話しませんか』大月書店
- 中澤篤史、内田良（2019年）『「ハッピーな部活」のつくり方』岩波書店
- 西島央（2006年）『部活動 その現状とこれからのあり方』学事出版（公財）日本中学校体育連盟「加盟校・加盟生徒数調査集計表」<https://nippon-chutairen.or.jp/data/result/>（最終閲覧日：2022年12月3日）
- 原田宗彦（2020年）『スポーツ地域マネジメント 持続可能なまちづくりに向けた課題と戦略』学芸出版社
- 益田依佳、竹盛友紀子、則元志郎（2018年）「部活動の歴史の変遷と子どもの運動機会についての一考察」『熊本大学教育学部紀要第67号』177-182
- 水上博司、谷口勇一、浜田雄介、迫俊道、荒井貞光（2020年）『スポーツクラブの社会学』青弓社
- 文部科学省（2018年）「教員勤務実態調査（平成28年度）の分析結果及び確定値の公表について（概要）」学校における業務改善について [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/uneishien/1297093.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/uneishien/1297093.htm)（最終閲覧日：2022年12月3日）
- 文部科学省（2019年）「我が国の教員の現状と課題—TALIS2018結果より—」OECD国際教員指導環境調査 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/data/Others/1349189.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/Others/1349189.htm)（最終閲覧日：2022年12月3日）
- 文部科学省（2000年）「スポーツ振興基本計画（平成13年度～23年度）スポーツ振興基本計画2スポーツ振興施策の展開方策2生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実方策A」[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/plan/06031014/004.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/06031014/004.htm)（最終閲覧日：2022年12月4日）
- 文部科学省 スポーツ庁（2020年）「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革【本文】」[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop04/list/detail/1406073\\_00003.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/detail/1406073_00003.htm)（最終閲覧日：2022年12月3日）

- 文部科学省 スポーツ庁 (2021年) 「運動部活動の意義・位置付け」 [https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop04/list/1405720\\_00003.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/1405720_00003.htm) (最終閲覧日:2022年12月3日)
- 文部科学省 スポーツ庁 (2022年) 「運動部活動の地域移行に関する提言会議提言 (参考資料)」 [https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/shingi/001\\_index/toushin/1420653\\_00005.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/001_index/toushin/1420653_00005.htm) (最終閲覧日:2022年12月3日)
- 文部科学省 スポーツ庁 (2022年) 「総合型地域スポーツクラブに関する実態調査 令和3年度 参考資料」 [https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop05/list/detail/1379861.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop05/list/detail/1379861.htm) (最終閲覧日:2022年12月3日)
- リバルタス・コンサルティング (2018年) 『公立小学校・中学校等教員勤務実態調査研究』 調査研究報告書 平成29年度文部科学省委託研究

(こばやし ひとし)

付録：アンケート調査票（生徒向け）

生徒アンケート【学校部活動の地域移行に向けた実現可能性調査について】

該当する項目に○を記入してください。

- 問1 二宮中学校・二宮西中学校（選択式）
- 問2 学年 [1年生・2年生・3年生]（選択式）
- 問3 移動手段 [徒歩、自転車、保護者の送迎]（選択式）
- 問4 現在、習い事（スポーツ、文化系を含む）に通っていますか？（複数回答可）  
[体操・水泳・空手・ピアノ教室・書道教室・その他（ ）]
- 問5 現在、学習塾に通っていますか？（複数回答可）  
[ステップ・明光義塾・個別指導塾スクールIE・私塾AYUMI・創英ゼミナール・ナビ個別指導学院・Pencilゼミナール・トライプラス・その他（ ）]
- 問6 今回のフットサルに参加したきっかけは何ですか？（選択式）  
[案内を見て興味を持ったから・先生からの紹介・親からの紹介・その他（ ）]
- 問7 今回のフットサルは全体的にいかがでしたか？（選択式）  
[とても満足している・まあまあ満足している・普通・あまり満足していない・全く満足してない]
- 問8 今回のフットサルのコーチの指導はいかがでしたか？（選択式）  
[とても満足している・まあまあ満足している・普通・あまり満足していない・全く満足してない]
- 問9 今回のフットサル教室の中で楽しかった項目はどちらですか？（複数選択可）  
[準備運動・基礎練習・対人練習・ゲーム・その他（ ）]
- 問10 今回のフットサル教室の中で楽しくなかった・嫌だった項目はどちらですか？（複数選択可）  
[準備運動・基礎練習・対人練習・ゲーム・その他（ ）]
- 問11 地域のクラブや学校の部活動に期待することは何ですか？（複数回答可）  
[スポーツを楽しむ・体力の向上・友達づくり・競技レベルを目指したい・その他（ ）]
- 問12 現在、学校の部活動に加入していますか？（選択式）  
[加入している・加入していない・その他（ ）]  
部活動に加入している方へお聞きします。
- 問13 学校の部活動と比較して、今回のフットサルは全体的にいかがでしたか？（選択式）  
[とても満足している・まあまあ満足している・普通・あまり満足していない・全く満足してない]
- 問14 「問13」を選んだ理由を教えてください。（記述式）  
[ ]
- 問15 学校の部活動が、ラビッツクラブ湘南二宮のような地域スポーツクラブで行うことになった場合、加入したいですか？（選択式）  
[加入したい・どちらでもない・加入しない・その他（ ）]
- 問16 「問15」を選んだ理由を教えてください。（記述式）  
[ ]
- 問17 今後、学校の部活動としてあったら加入したい種目は何ですか？（複数回答可）  
[スケートボード・ボルダリング・ダンス・ボッチャなどのパラスポーツ・eスポーツ・プログラミング教室・パソコン教室・料理教室・その他（ ）]
- 問18 今回、フットサルに参加した感想やご意見などをご自由に記入ください。

～ご協力ありがとうございました～

付録：アンケート調査票（保護者向け）

保護者向けアンケート【学校部活動の地域移行に向けた実現可能性調査について】

該当する項目に○を記入してください。

問1 二宮中学校・二宮西中学校（選択式）

問2 学年 [1年生・2年生・3年生]（選択式）

問3 移動手段 [徒歩、自転車、保護者の送迎]（選択式）

問4 現在、習い事（スポーツ、文化系を含む）に通っていますか？（複数回答可）

[体操・水泳・空手・ピアノ教室・書道教室・その他（ ）]

問5 現在、学習塾に通っていますか？（複数回答可）

[ステップ・明光義塾・個別指導塾スクールIE・私塾AYUMI・創英ゼミナール・ナビ個別指導学院・Pencilゼミナール・トライプラス・その他（ ）]

問6 保護者様の視点で、地域のクラブや学校の部活動に期待することは何ですか？（複数回答可）

[スポーツを楽しむ・体力の向上・友達づくり・競技レベルを目指させたい・その他（ ）]

問7 現在、何部に所属していますか？（選択式）

[サッカー・野球・バスケ・バドミントン・陸上・テニス・卓球・バレーボール・剣道・吹奏楽・美術・地域クラブ・その他（ ）・加入していない]

問8 学校の部活動が、ラビツククラブ湘南二宮のような地域クラブで行うことになった場合、加入したいですか？（選択式）

[加入したい・どちらでもない・加入しない・その他（ ）]

問9 「問8」を選んだ理由を教えてください。（記述式）

[ ]

問10 問8のような状況の場合、受益者負担（保護者負担）となることについて考えをお聞かせください。（選択式）

[賛成・どちらでもない・反対・その他（ ）]

問11 「問10」を選んだ理由、また、賛成の場合は、月額いくらなら払おうと思えるか、ご意見をお聞かせください。（記述式）

[ ]

問12 学校の部活動の場所についてご希望はありますか？（複数回答可）

[中学校の施設・町立体育館/運動場・町外の施設・その他（ ）]

問13 「問12」を選んだ理由を教えてください。（記述式）

[ ]

問14 今後、地域スポーツクラブとしてあったら加入したい種目は何ですか？（複数回答可）

[スケートボード・ボルダリング・ダンス・ボッチャなどのパラスポーツ・eスポーツ・プログラミング教室・パソコン教室・料理教室・その他（ ）]

最後に、今回のフットサルご参加に関するアンケートです。

問15 今回のフットサルに参加させたきっかけは何ですか？（選択式）

[案内を見て子どもが興味を持ったから・先生からの紹介・その他（ ）]

問16 今回のフットサルに参加した子どもの様子はいかがでしたか？（選択式）

[とても満足している・まあまあ満足している・普通・あまり満足していない・全く満足してない]

問17 今回のフットサルのコーチの指導に関する感想はいかがでしたか？（選択式）

[とても満足している・まあまあ満足している・普通・あまり満足していない・全く満足してない]

問18 今回のフットサル教室のダイジェスト動画はご覧になりましたか？（選択式）

[はい・いいえ・その他（ ）]

問19 今回のフットサル教室のダイジェスト動画はいかがでしたか？（選択式）

[とても満足している・まあまあ満足している・普通・あまり満足していない・全く満足してない]

問20 学校の部活動と比較して、生徒様の感想としては、今回のフットサルは全体的にいかがでしたか？（選択式）

[とても満足している・まあまあ満足している・普通・あまり満足していない・全く満足してない]

問21 「問20」を選んだ理由を教えてください。（記述式）

[ ]

問22 今回、フットサルに参加した感想やご意見などをご自由に記入ください。

～ご協力ありがとうございました～

付録：アンケート調査票（教員向け）

教員アンケート【学校部活動の地域移行に向けた実現可能性調査について】

該当する項目に○を記入してください。

問1 二宮中学校・二宮西中学校（選択式）

問2 性別 [男性・女性・その他]（選択式）

★現在、担当している部活動について、お伺い致します。

問3 担当部活動（記述式）（ ）

問4 現在担当をしている部活動の現在の部員数は何名ですか。（記述式）（ ）名

問5 現在、担当の部活動に関わっている回数は平均でどれくらいですか

[週1回・週2回・週3回・週4回・週5回・週6回・週7回]（選択式）

問6 現在、担当の部活動のために1週間に平均でどれくらいの時間をかけていますか（記述式）

（ ）時間程度

問7 現在担当をしている部活動は、自身が競技者等になった経験があるものですか。[ある・ない]（選択式）

問8 現在担当をしている部活動の普段の練習や活動に外部指導員制度を活用していますか [している・していない]（選択式）

問9 問8で「している」と答えた方にお聞きします。外部指導員は平均で週にどれ位、何名程度、活用していますか。

（記述式）（ ）名・（ ）回（ ）時間

問10 現在担当している部活動競技等の普段の練習や活動は自校の生徒のみで実施できていますか。

[できている・できていない]（選択式）

問11 問10で「できていない」を選択した方のみにお伺い致します。（記述式）

どのような組織・他校と連携して、部活動競技等の練習や活動をしていますか。

（ ）

★部活動の地域移行について、ご意見をお聞きします。

2020年9月、スポーツ庁・文化庁・文部科学省は、「令和5年度からの休日部活動の段階的な地域移行」という方針を発表しました。しかし、向かう方向性が「平日を含めた学校部活動の完全地域移行」なのか「その具体的な段取りはどのようなものか」といった点も含め、現在、方針が定まっていない状況にあります。

問12 部活動が地域への移行された時に、どのようなことが心配されますか。（選択式・記述式）

[生活指導面への影響・教科指導面への影響・大会参加・生徒評価への影響・地域での指導者との連絡体制・その他]  
具体的に心配される点について下記に記入してください。

（ ）

問13 部活動の地域移行にあたり、教員も兼業・副業として地域に移行された地域団体の活動に参加できる方法について議論、検討されています。教員が兼業・副業として参加できる場合、参加をしたいと思いますか。（選択式）

[したい・したくない]

問14 問13の理由を教えてください。

（ ）

問15 部活動の地域移行にあたり、地域移行された地域団体の活動に参加する場合、どのようなことが心配されますか。

（ ）

問16 部活動が地域移行された時の大会参加について、お聞きします。

現在、学校単位のみに参加資格が与えられている各部活動の種目について、地域スポーツクラブ等の地域団体も参加できるようにする必要性について、議論、検討されています。学校単位のみではなく、地域スポーツクラブ等の地域団体も大会に参加できるようになったときに、どのようなことが心配されますか。（記述式）

（ ）

～ご協力ありがとうございました～

# A Study of the Current Status and Issues of “The Transition of Club Activities to Regional Clubs” from the Perspective of Regional Sports Clubs: A Case Study of Kanagawa Prefecture, Naka-gun, Ninomiya Town

Hitoshi KOBAYASHI

## Abstract

Data shows that Japanese junior high school teachers are extremely busy, even by global standards. The average workday exceeds 11 hours, which is considered long hours. One of the reasons for this is “school club activities”. In order to solve this problem, the “Reform of Club Activities Based on Reform of School Work Styles” was announced by the national government in 2020. This government reform clearly states that from 2023, club activities on holidays will gradually be shifted to local communities, and that a system for club activities in which schools and communities collaborate and integrate will be established.

In this study, we report on the practical implementation of the “Future Bukatsu” feasibility study (FS) project conducted by the Ministry of Economy, Trade and Industry (METI) in 2021 to verify how the project should be operated and how to secure locations and leaders for local clubs, and examine the issues that emerged and the future direction of the project as the implementation proceeded.

As a result, it was found that three perspectives are important for the transition of club activities to regional clubs being promoted by the national government: “effective and efficient operation,” “securing profits for sustainable club management,” and “organizing the relationships”. Furthermore, it became clear that the schools, government, and local clubs should continue to collaborate in ongoing discussion and practice.

Keywords: Community Sports Club, Club Activities, Club Management, Ninomiya Town